

成田空港が開港して10年。5期目を迎えた長谷川市政は、かねてから念願であった中国咸陽市、米国サンブルーノ市と友好都市・姉妹都市を締結し、より身近に国際交流時代の到来を感じさせました。

一方、21世紀に向けて新しいまちづくりが急ピッチに進む中、地域の自然や生活環境の問題が大きくクローズアップ。「成田の水をきれいにしよう運動」、「ふるさと川づくり」の推進、「印旛沼周辺環境美化運動」、「ゴミの減量化運動」、「街角クリーン作戦」など、市や市民の手によって“ふるさと成田”を美しくしようとする運動が大いに盛り上がった時代でもありました。

シリーズ
成田市
50年

国際交流
(昭和62～平成2年)

固い握手で互いの友好を誓い合う

友好都市・中国咸陽市

咸陽市との交流は昭和60年、陝西省長から西安市名誉市民の鍵田忠三郎氏を通じて、国際空港建設途上の咸陽市と友好都市締結の打診を受けたことがきっかけでした。

以後、毎年両市から友好訪問団を派遣。61年からは成田青年会議所が主催する、成田少年の翼が親善大使の役割を担い、咸陽市の少年たちと交流を深めるなど友好都市締結の気運が高まり、昭和63年9月14日、成田国際文化会館で友



「友好の旗」を交換する長谷川成田市長と張咸陽市長（昭和63年9月14日）

姉妹都市・サンブルーノ市

好都市締結の調印式が行われました。両国合わせて130人を超える関係者が出席。長谷川市長と張宏勳咸陽市長が協定書に署名し、ガッチリと固い握手が交わされた瞬間、会場からは万雷の拍手が巻き起こりました。

米国西海岸の大会サンフランシスコ市に隣接するサンブルーノ市。姉妹都市のなれ初めは、成田市のロータリークラブがサンブルーノのロータリークラブに呼びかけ姉妹クラブ

を結んだことでした。

その後、姉妹都市提携の申し入れがなされ、昭和60年から毎年、中学生による少年海外友好使節団を

派遣。サンブルーノでは中学校の授業参加やホームステイを体験し、交流を深めてきました。

平成2年10月6日、市役所大会議室で姉妹都市の調印式が行われ、中国咸陽市に次いで2番目の海外提携都市となりました。また、翌3年には、成田ライオンズクラブも姉妹クラブとなりました。



大勢の来賓が列席する中で行われた成田市とサンブルーノ市の姉妹都市締結（平成2年10月6日、市庁舎大会議室）



右：農業振興に積極的な咸陽市。市内のトマト農家を見学する張市長
左：サンブルーノ市の中学校の授業に参加する友好使節団一行

「きれいな水は家庭から」を 基本理念に

21世紀に向かって、快適で住みよい都市づくりを進めるための重点施策として取り組んだ運動で、昭和63年度にスタートしました。河川や沼を汚す最大の原因は、生活排水。きれいな水を取り戻すには、市民一人ひとりの意識改革が必要と、「水を知る」をテーマに、消費生活展や産業まつりでのPR活動、家庭でできる生活排水対策

の講習会など、いろいろな催し物が行われました。また、市では、水質浄化に効果的な合併浄化槽の設置を積極的に導入し、設置費用の一部を補助する制度を設けました。この浄化槽は、各家庭や事業所などで普及し、河川の水質浄化に大きな役割を果たしました。



合併処理浄化槽の仕組みを説明する職員
(昭和63年5月)

大勢の家族が参加した
印旛沼周辺環境美化運動
(平成元年10月)



ごみ問題の取り組み

市指定のごみ袋で分別収集を徹底

ごみ問題の解決には、焼却場や最終処分場などの処理能力を高めるだけではなく、徹底した分別処理が必要のため、平成2年4月からごみの収集方法が大きく変わりました。大きな柱は次の3点
家庭から出るごみは、市指定のごみ袋を使い、燃えるごみ、燃えないごみの分別を徹底
事業所ごみは事業者の責任で処理すること
リサイクル運動でごみの減量化を図るとともに資源ごみの回収

また、ごみの減量化とともに、生活環境・公衆衛生をさらに向上させるため、家庭用簡易焼却炉設置補助事業の制定、ごみ集積所設置費補助金の改定、リサイクル運動奨励金の改定を行いました。市と市民が協力してこれらのことに取り組むことで、ごみ問題への関心が高まり、処理場へ持ち込まれるごみの量が減少、リサイクル運動の活発化など、確実な成果を上げることができました。



平成元年4月、十余三につくられたごみの最終処分場「成田クリーンパーク」



リサイクル運動でごみの減量化(花崎町)



補助金の活用できれいになったごみ集積所(平成2年)